

令和元年8月定例市議会

行政報告要旨

総社市

議員各位におかれましては、万障お繰り合わせ、ご出席いただき、誠にありがとうございます。

本日、午前1時06分、中国電力より新成羽川ダムの事前放流を午前2時から行なう旨の連絡がございました。

これは、広島県を含むダム流域で予想される、39時間雨量が110mmを越えたためです。昨日の21時と本日0時の2回連続で110mm以上の雨量予測が確認され、中国電力の事前放流ルールにより午前2時に放流開始となりました。

本市の対応ですが、午前3時30分に緊急幹部会議を召集し、情報伝達及び今後の対応を決めました。

その後、議員の皆様方やコミュニティ地域づくり協議会、そうじゃ水辺の楽校、きよね夢テラス、揚水機管理者、消防分団長などに、連絡をさせていただきました。そして、午前4時12分に公式ラインとメールマガジンで第1報を発信し、更に第2報、第3報と随時情報提供をしております。

また、広報車による注意喚起を午前4時50分から行って

います。これは、4台の車で高梁川の左岸・右岸に分かれて拡声器による広報活動、更に、河川敷にいる人に対し、個別に注意喚起を行っているものです。

引き続き、高梁川の水位に警戒してまいります。

1) 平成30年7月西日本豪雨災害からの復旧復興状況等

それでは、平成30年7月西日本豪雨災害からの、心・メンタルの復興と、形・インフラの復興の、2通りの復興についてご報告いたします。

(心の復興)

まず、何より大切な「心の復興」ですが、その土台にあるのはお住まいの確保であり、このことについて、できるだけ早くお示しする必要があると考えました。

8月27日現在、昭和仮設住宅に21世帯、西仮設住宅に16世帯、みなし仮設住宅などに74世帯が入居されています。今なお、不自由な生活を強いられている方々が、少しでも心の回復を図っていただけるよう、復興住宅の整備方針について申し上げます。

昭和地区に建設する復興住宅は、今ある仮設住宅の場所に、西仮設住宅は、下原地区に移し、現在の仮設住宅の建物を活用して、整備いたします。また、民間の賃貸住宅などへ入居されている方については、本市独自で、最長3年間の家賃助成制度を創設したいと思います。入居される方には、ある程度の、ご負担をお願いすることになりますが、総額約3億9千万円を、来年度当初予算に盛り込む予定としております。

また、被災者の生活再建への足がかりとして、住宅災害復旧等資金利子補給制度を創設いたします。これは、住宅の修理や建替えに伴う、一定の借入金に対する利子0.63%を上限に、10年間助成するものです。本議会に、この制度に伴う利子補給金の予算案を提出しておりますので、慎重なご審議の程、よろしく願いいたします。

さらに、保健福祉部長自らが、仮設住宅などを訪問し、支援を実施しております。被災者の健康管理や、住まいの再建に向けた見守り支援は、7月末までで3,444回を数え、現在、448世帯の方を対象に、活動を続けており

ます。今後も、被災者に寄り添いながら、一刻も早く、平穏な日常に戻れるよう尽力してまいります。

(形の復興)

次に、「形の復興」として、河川、道路などのハード整備の進捗状況をご報告いたします。

まず、美袋・草田・秦地区へ設置する排水ポンプは、設計を進めており、下原砂古地区へは、農業用排水設備を整備いたします。排水ポンプ設置にかかる費用だけで、約10億円を見込んでおり、国の補助制度や、有利な起債の借り入れなどを検討し、国へ被災地の現状を訴えながら、来年度から順次、着手してまいります。

市道などの復旧状況としては、現在92%の工事が完了しております。また、加藤議長とともに、7月8日に、岡山県の佐藤副知事、及び^{はすおか}蓮岡県議会議長、19日に、中国地方整備局、26日に国土交通省、内閣府、総務省、及び国会議員を訪問し、日羽から種井までの国道180号の嵩上げや、仮設住宅の供与期間の延長、排水ポンプ設置に対する補助

などについて要望してまいりました。高梁川では、清音古地付近の樹木伐採が進められております。また、下倉草田地区の堤防決壊箇所は、河川改修が完了し、災害前より1 mから1.5 m程、堤防が高くなりました。豪溪秦橋付近の河道掘削は、概ね完了し、下倉橋下流付近の樹木伐採、及び河道掘削については、発注準備が進められています。

(災害への備え)

さらに、昨年の災害で得た経験を強みに変え、災害に備えてまいります。

8月15日に、台風10号が上陸した際、総社市公式LINEを通じて災害情報を発信したところ、非常に大きな反響がございました。台風襲来前の登録者数は3千人弱でしたが、高梁川だけでなく、前川、足守川、榎谷川の越水危険箇所などを、動画で配信し、一人一人に安心をお届けしたことで、2日間で登録者数が1.5倍以上に急増し、8月27日現在、4,915人が登録されています。今後、各地域に配置する、特派員を通じた情報提供の体制を整備し、

災害時の強力な情報配信ツールとして、活用してまいります。

また、前回の議会でご報告しましたダムの事前放流については、中国電力から連絡が入り次第、責任を持って、地元の皆様や、周辺の施設に迅速に連絡し、注意喚起を図るための広報車を配備するなどの運用方針を定めました。土砂災害・洪水ハザードマップは、さらに精度を高め、更新作業を行っております。避難所については、市内の企業からご協力をいただき、吉備信用金庫本店の屋上、及び市内のユーマンション55ヶ所を、新たに、一時避難所として指定することとなりました。

また、昨年の災害時に、大いにご活躍いただいた消防団員などの皆様ですが、船舶や重機などの資格、免許をお持ちの方を、事前に登録し、特殊技能チームとして、編成したいと考えております。7月2日には、免許がなくても操縦できる小型の救助用ボート操船訓練を行い、消防団員や市職員など、19人に修了証を発行しております。8月26日には、建設機械を活用した災害復旧合同訓練を実施し、災害即応力を強化したところです。

今後は、ボランティアなどを含めて、避難所の質の向上や、最前線からの情報収集を図るなど、迅速かつ臨機応変に対応できる協力体制を構築してまいります。

2) 全国屈指の福祉文化先駆都市の実現に向けて

次に、全国屈指の福祉文化先駆都市の実現に向けた取組みについて、4点ご報告いたします。

(ひきこもり支援)

まず、全国に先駆けて行っている、ひきこもり支援ですが、当初把握できていた方と、これまでにご相談いただいた方をあわせて、市内には、ひきこもりの方が少なくとも400人おられることがわかっています。

8月26日に、総社市が中心となり、初めて開催した「全国ひきこもり支援基礎自治体サミット」には、全国から約700人も参加がありました。サミットでは、群馬県あんなかし安中市のもてきひでこ茂木英子市長、愛知県とよあけし豊明市のこうきまさふみ小浮正典市長、滋賀県みやもとかずひろ守山市のくぼたきみこ宮本和宏市長、山口県宇部市の久保田后子市長、そして私の5市長が、「ひきこもり支援に果敢に取り組む」

とするサミット宣言を採択いたしました。

ひきこもり支援については，国においても，担当部署が必ずしも明確でなく，全国一律の仕組みもございません。今後，基礎自治体における，支援の具体的な方策を研究し，全国に発信してまいります。そして，この取組にご賛同いただける市長とともに，私が座長となり，一年に一度，必ず，サミットを持ち回りで開催することとし，ひきこもり支援の必要性について，国に強く提起してまいりたいと思います。

(認知症事故救済制度)

次に，８月から「認知症事故救済制度」がスタートいたしました。岡山県内初となるこの制度は，「ＳＯＳそうじゃおかえりサポート」システムに，本人登録された認知症の方が，行方不明となり，損害賠償責任を負った場合，最大３億円が補償される個人賠償責任保険に，総社市が契約者となり，加入するものです。認知症の方やその家族が，地域の中で，安心して暮らし続けられるよう，制度を運用してまいります。

(幼児教育無償化)

3点目、10月から、幼児教育・保育の無償化が始まりますが、総社市は子ども本位で、保育の質の向上を図ってまいります。8月1日現在、待機児童は4人おられますが、親、家族、地域とわかり合える関係を築いたうえで、市全体で子どもを思い、子ども基点の政策を実行してまいります。

(障がい者施策)

最後に、私が最も力を入れてきた障がい者施策についてでございます。障がい者千五百人雇用は、7月1日現在、1,055人の方が就労されています。6月に「株式会社西山ファーム福祉サービス」総社事業所の、事業継続が困難となりましたが、直ちに緊急相談窓口を設置し、関係機関と緊急対策会議を開催いたしました。現在、事業所を利用されていた8名の総社市民のうち、2名の方の就職が決まっております。引続き、賃金の向上や、就労機会の確保などの質の充実を図り、総社に住んで良かったとさせていただけるよう、寄り添った支援を続けてまいります。

また、総社市では、2020年東京パラリンピックの事前キャンプ地として、イラン・イスラム共和国と交渉を始めます。障がいがありながらも、世界を舞台に活躍する、海外の選手たちを迎えることを契機とし、共生社会の実現に向けた取組を加速してまいりたいと思います。

(市民へのお知らせ)

ここで、2点お知らせをさせていただきます。

(1) 赤米フェスタ2019

まず、9月15日 日曜日17時から、備中国分寺南側広場において、赤米フェスタ2019を開催いたします。相川七瀬さん、さだまさしさん、永井真理子さんなどが出演し、赤く色づく稲穂の中で繰り広げられる幻想的なステージを是非お楽しみください。

(2) プレミアム付商品券

次に、子育て世帯，及び令和元年度住民税が非課税の方を対象に，プレミアム付商品券を発行いたします。1冊

5，000円の商品券を4，000円で販売し，最大5冊まで購入できます。9月17日から，引換券による商品券の販売を開始いたしますので，どうぞご利用ください。

(5月議会での検討事項について)

続きまして，先の5月議会で検討事項としたものについて，その結果を御報告させていただきます。

山田議員から，運転免許証の自主返納者への対応はどうかとの御質問があり，今年度から，自主返納した方に対する「雪舟くん」利用券の配布を，30枚から50枚といたしました。

次に，三宅議員，萱野議員，溝手議員から子どもに対する交通安全対策について多くのご質問をいただきました。

6月26日に「子どもたちの安全を守る連携会議」を開催

し、ドライバーに「子どもの安全を守るステッカー」を配布するなど、交通安全に対する啓発活動を行っております。

通学路の安全対策としては、地域力予算を活用し、路面表示やポール設置など、複数の工事を発注しております。また、危険箇所には、適宜、注意喚起の看板を設置しているところです。引続き、総社市において、悲惨な事故が決して起こることのないよう、最善を尽くしてまいります。

以上、私の任期も残すところ1月余りとなりましたが、総社市政に空白期間を作ることなく、市民に寄り添い、挑戦を続けてまいり所存です。総社市の人口は7月31日現在、6万9,169人と、過去最高を更新いたしました。8月27日現在、6万9,216人と、さらに、増加の一途をたどり、県内15市の中で唯一、人口増加を続けております。しかし、このことに慢心することなく、右肩上がりを維持できるよう、頑張っておりますので、議員の皆様におかれましても、より一層のご理解とご協力をお願い申し上げます、私からの行政報告とさせていただきます。